

PORTATONE

PSR-6300

取扱説明書

ABSINTHE
HOUSE



YAMAHA

ヤマハポータートーンをお買い上げいただきありがとうございます。

これだけは読んでおきましょう ポータートーンを使い始める前に、下の〈取扱上の注意〉とくポータートーン早わかり〉だけは読んでおきましょう。ポータートーンを使いこなすための基本です。

楽器をよくご理解 本書では、ポータートーンの手操作方法を機能別に、くわしく説明しています。お読みになった後も大切に保管して、わからないことが出てきたら、もう一度ご覧になってください。また、ポータートーンには本書のほかに、別冊として「機能フォルテシモ活用術」、「MIDI HAND BOOK」、「PLAY MATE」も付いています。

もくじ

初級編	(PART 1)	鍵盤の音色を選ぶ	4
		3種類の音色パートを活用する	5
	(PART 2)	リズムを鳴らす	6
		リズムに変化をつける／番外編 鍵盤を打楽器がわりにして遊ぶ (キーボードパーカッション)	7
	(PART 3)	オートベースコード	
		＜I＞指1本で自動伴奏(シングルフィンガー)	8
		「ラブ・ミー・テンダー」を弾いてみましょう	9
		＜II＞和音を押さえて自動伴奏(フィンガード)	10
		＜III＞ベースラインを自分で弾く(マニュアルベース)	11
		「いとしのエリー」の弾き語り挑戦	11
上級編	(PART 1)	演奏をメモリーする(ミュージックプログラマー)	12
	(PART 2)	オリジナルの自動伴奏パターンをつくる(カスタムアカンパニメントプログラマー)	17
		その他の機能	21
		パネル面の情報をメモリーする(レジストレーションメモリー)	22
		演奏データをバックにストックする(RAMバック)	23
		演奏データをテープに録音する(テープ)	24
		仕様	25
		付属端子とオプション	26
		故障と誤りやすい現象	28
		ポータートーン機能索引	3

ポータートーンをながくお楽しみいただくために〈取扱上の注意〉

こんな所には置かないでください。

- 暖房器具のそばや日中の車内など、極端に温度が高い場所、湿気の多い場所には置かないでください。

こんな所ではお使いにならないでください。

- テレビやラジオをつけている時に、そのすぐ近くではお使いにならないでください。(雑音が発生する場合があります。)

無理な力を加えないでください。

- 落としたり、上に座ったりしないでください。
- ボタンやスイッチなどに、無理な力を加えないでください。

使用後は

- 必ずパワースイッチを切ってください。
- 長い間使わないときはコンセントをぬいておいてください。

お手入れは

- 柔らかい布でカラ拭きをしてください。
- 汚れがひどいときは、少し水で湿らせた布で拭いてください。
- アルコールやシンナー類は、絶対に使わないでください。
- 塩ビ系のものを長時間置くと、くっつく場合があるので注意してください。

ポータートーン早わかり

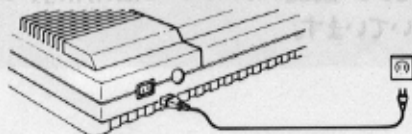
まずは、ポータートーンのアウトラインをつかみましょう。くわしくは()のページをご覧ください。

したく1

まずはポータートーンのセット。

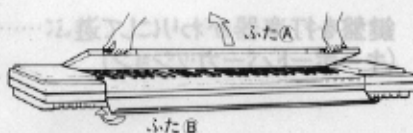
①電源に接続します。

★必ずAC100Vのコンセントから電源をとるようにしてください。



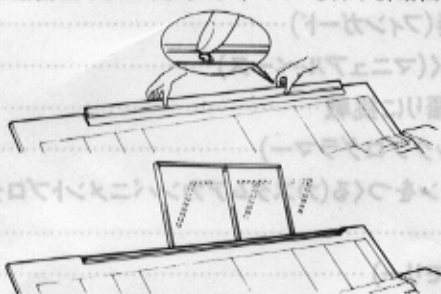
②まずふた①のへこみに指をかけてあげ、それから、ふた②を本体の下にカチッと音がするまでたたみます。

★ふたをしめる時は、ふた③からしめます。



③譜面立てをたてます。

ふた④の上部の譜面立てのふたをあけ、中のツメを押すと、譜面立てが出来ます。



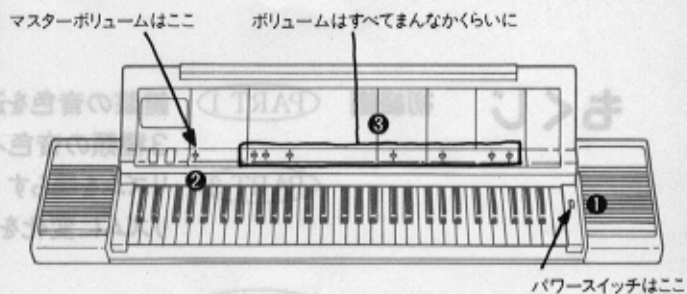
したく2

音を出す準備

①パワースイッチをON。

②マスターボリュームを上げます。

③それ以外のボリュームも、とりあえずまん中くらいにしておきます。



キーボードセンサーセンシビリティ (P21)
鍵盤タッチによる音量の変化を調節

テープ (P24)
カセットテープなどに演奏データを入れたり出したりする時に使います。

RAMパックの差し込み口 (P21)

RAMパック (P21)
RAMパックに情報を入れたり出したりする時に使います。

付属端子1はこのあたり

モジュレーション (P21)
音を突調させるホイール。
ソロ音色だけに使えます。

ピッチベンド (P21)
音程を一時的に変化させるホイール。

マスターボリューム
全体の音量を調節

ピッチ (P21)
微妙な音程を調節

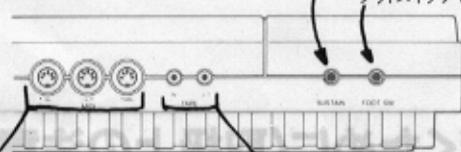
ヘッドホン端子はここ

付属端子

(くわしい内容は26-27ページの「付属端子とオプション」をご覧ください)
オーディオやコンピューターなどと接続したり、ヘッドホンで夜中の気まぐれプレイを楽しんだり…。ポータートーンの魅力をいっそう広げるためのインターフェイスです。

付属端子1

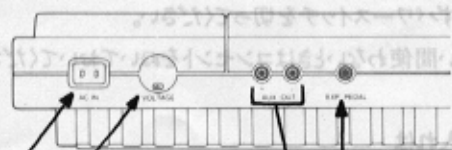
フットスイッチでサステインのON/OFFを行う端子。
フットスイッチを接続する端子。



この3つはMIDI端子。他の楽器やコンピューターなどと接続し、データ交換ができます。

カセットテープなどに演奏データを保存するときに使います。

付属端子2



電圧調整が必要などときに使う端子。
(国内では必要ありません)

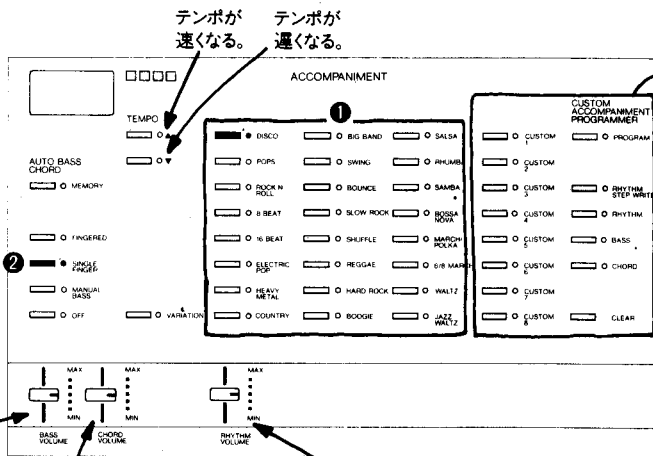
この2つはオーディオなどにつなぐ端子。

ヘッドホン端子 ヘッドホンをつなぐ端子。本体手前の左はしにあります。

オートベースコード

自動伴奏にトライ!(P6~11)

- ① リズムを選びます。
 - ② オートベースコードをシングルフィンガーにセット。
 - ③ シンクロスタートを押します。
 - ④ オートベースコード用鍵盤をひとつ押してみましょう。
- ★伴奏とリズムがいっしょにスタートしましたネ。



カスタムアカンパニメントプログラマー(P17~20)
自分で自動伴奏パターンをつくってみたい、という場合は、このカスタムアカンパニメントプログラマーを使います。

フィルイン(P7)

リズムが鳴っている時にフィルインを押すと、その小節だけリズムがカッコよくなります。

ベースボリューム
ベース音のボリューム調節

コードボリューム
コード(和音)のボリューム調節

リズムボリューム
リズムのボリューム調節

イントロ/エンディング
演奏のイントロやエンディングをバシッとキメたい時に押します。

キースプリット(P5)

オートベースコード用鍵盤(低音部)とメロディーを弾く鍵盤(高音部)の境い目の位置を変えたい時に押します。
(▼ランプのついた位置が境い目)

ストップ

これを押すとリズムがストップします。

スタート

すぐにリズムを出したいときはココ。

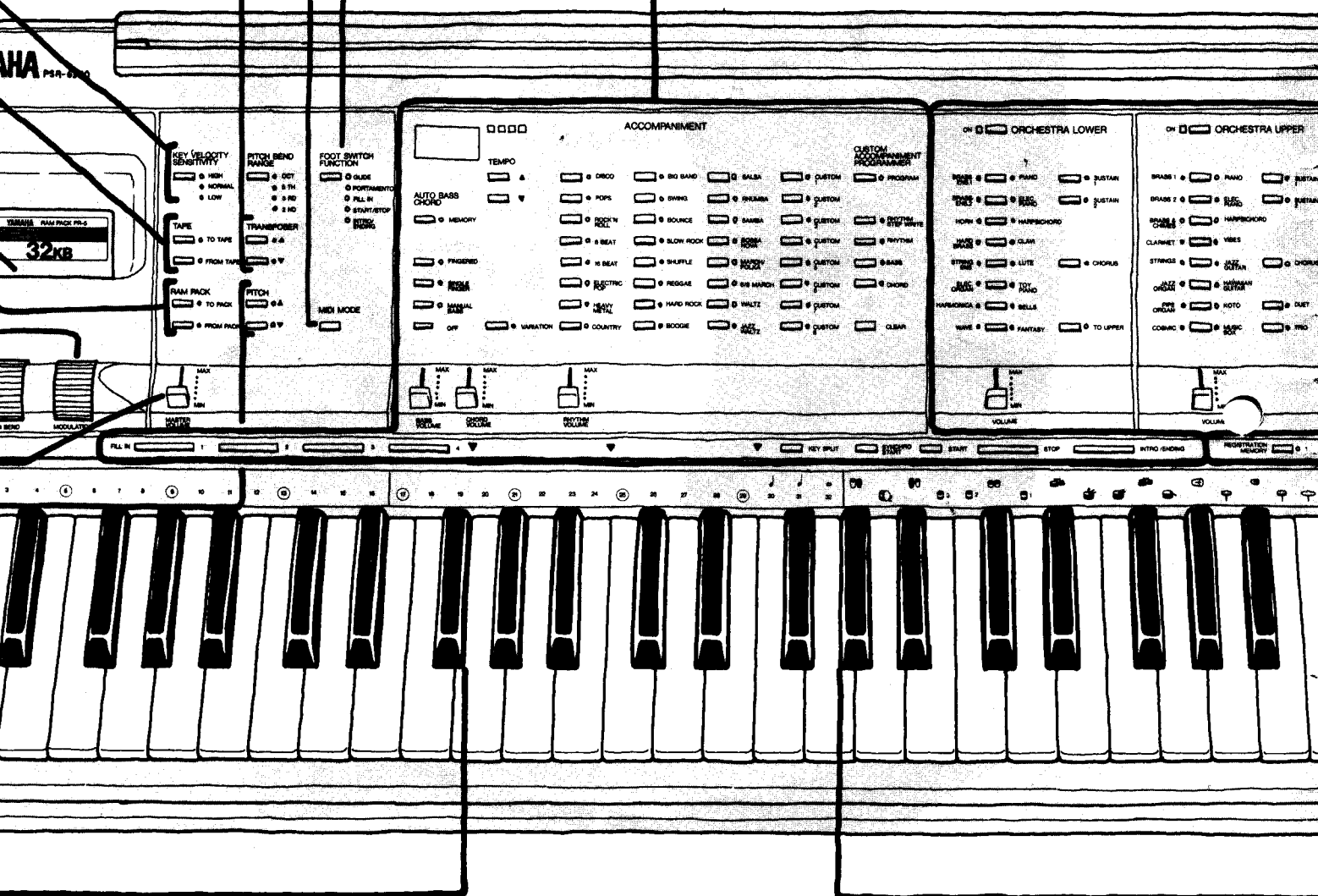
フットスイッチファンクション(P26)
フットスイッチを使うときに機能を選ぶボタン

MIDIモード(P26)

MIDI端子を使うときに押すボタン

トランスポザー(P21)

キーを調節



オートベースコード用鍵盤

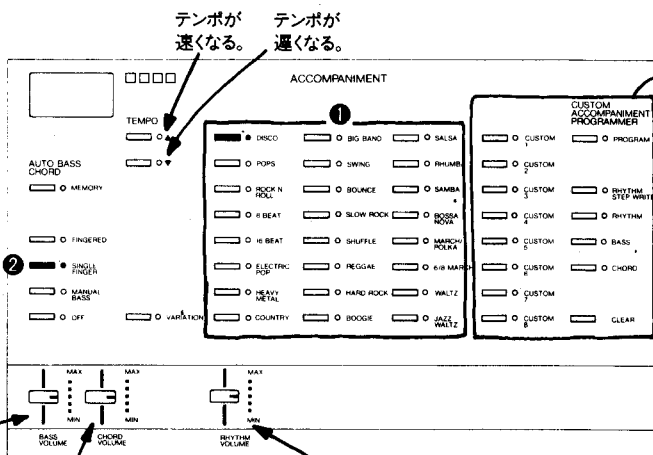
自動伴奏をするときは、この鍵盤を使います。

〈キーボードパーカ

(カスタムアカンパニメントプログラマー)
打楽器の音
やキーボードパーカッションなどで

自動伴奏にトライ!(P6~11)

- ① リズムを選びます。
 - ② オートベースコードをシングルフィンガーにセット。
 - ③ シンクロスタートを押します。
 - ④ オートベースコード用鍵盤をひとつ押してみましょう。
- ★伴奏とリズムがいっしょにスタートしましたね。



カスタムアカンパニメントプログラマー(P17~20)
自分で自動伴奏パターンをつくってみたい、という場合は、このカスタムアカンパニメントプログラマーを使います。

フィルイン(P7)
リズムが鳴っている時にフィルインを押すと、その小節だけリズムがカッコよくなります。

ベースボリューム
ベース音のボリューム調節

コードボリューム
コード(和音)のボリューム調節

リズムボリューム
リズムのボリューム調節

イントロ/エンディング
演奏のイントロやエンディングをバシッとキメたい時に押します。

フットスイッチファンクション(P26)
フットスイッチを使うときに機能を選ぶボタン

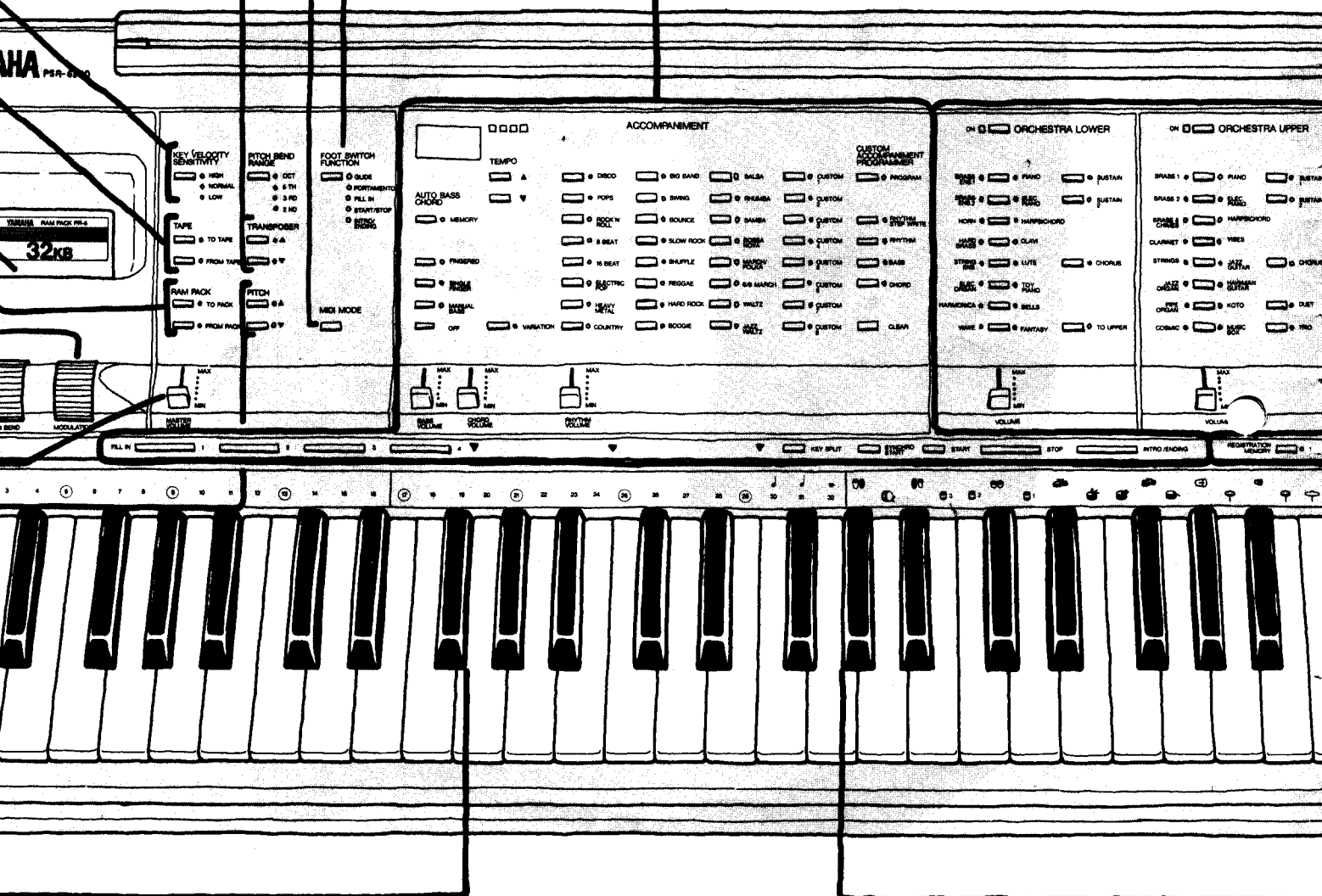
MIDIモード(P26)
MIDI端子を使うときに押すボタン

トランスポージャー(P21)
キーを調節

キースプリット(P5)
オートベースコード用鍵盤(低音部)とメロディーを弾く鍵盤(高音部)の境目の位置を変えたい時に押します。
(▼ランプのついた位置が境目)

ストップ
これを押すとリズムがストップします。

スタート
すぐにリズムを出したいときはココ。



オートベースコード用鍵盤

自動伴奏をするときは、この鍵盤を使います。

〈キーボードパーカ

(カスタムアカンパニメントプログラマー)
打楽器の音
やキーボードパーカッションなどで

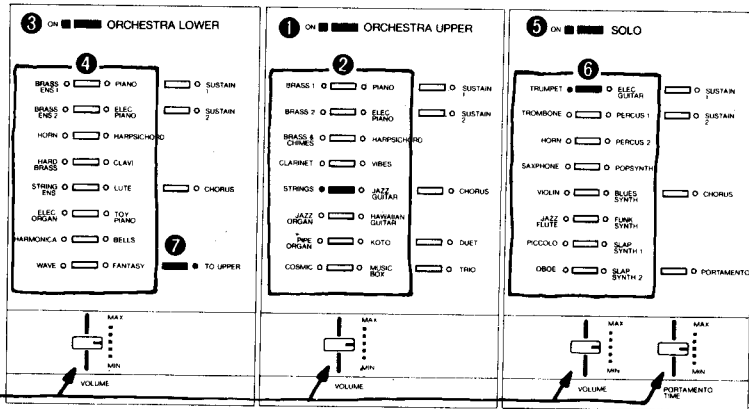
オーケストラアッパー、オーケストラロー、ソロ

音色を選びましょう(P4~5)

- ①オーケストラアッパーのボタンをON。
(鍵盤の全域がオーケストラアッパーの音色になります。)
- ②好きな音色を選んでON。鍵盤を押さえてみましょう。
- ③オーケストラローのボタンをON。
(オートベースコード用鍵盤だけがオーケストラローの音色に変わります。)

- ④好きな音色を選んでON。
オートベースコード用鍵盤を押さえてみましょう。
- ⑤ソロのボタンをON。
(オートベースコード用鍵盤以外の鍵盤の最高音にソロ音色が加わります。)
- ⑥好きな音色を選んでON。オートベースコード用鍵盤以外の鍵盤を同時にいくつか押さえてみましょう。
- ⑦オーケストラローのツーアッパーのボタンをON。

(鍵盤の全域がオーケストラアッパー、オーケストラロー、最高音だけソロの重音になります。)



ボリュームはここで調節。

ミュージックプログラマー(P12~16)

コード進行やメロディー、伴奏をメモリーしたい場合は、このミュージックプログラマーをつかいます。

キーボードパーカッション(P7)

このボタンを押すと、キーボードパーカッション用鍵盤から打楽器音が出ます。

付属端子2はこのあたり

レジストレーションメモリー

パネル面の情報をメモリーしましょう(P22)

プログラムのボタンを押しながら、レジストレーションの1~5のどれかのボタンをON。

REGISTRATION MEMORY ■ 1 □ 2 □ 3 □ 4 □ 5 ■ 100% JAPAN

★これでプログラム完了です。プログラムした情報をパネル面に呼び出したい時は、その情報が入っているボタンを押すだけ。曲の途中で音色やボリュームバランスの変更をしたり、効果を加えたい時などに使うとたいへん便利です。

パーカッション用鍵盤)

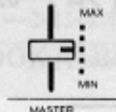
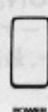
を出すときには、この鍵盤を使います。

電源を入れる
スイッチ

初級編 PART1 鍵盤の音色を選ぶ

ポータートーンPSR-6300の音色は、オーケストラアップパー・オーケストラロー・ソロの3つに分かれています。演奏する曲によって、それぞれの音色パートを効果的に使いましょう。

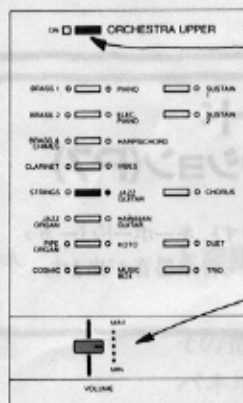
① パワースイッチをON。マスターボリュームを上げます。



この状態のときは、いつも自動的につぎの音が選ばれています。

- オーケストラアップパー……プラス1
- オーケストラロー……プラスアンサンブル1
- ソロ……トランペット

② オーケストラアップパーの音色セクターから、好きな音色を選んでON。



電源を入れた時点でONになっています。

★音色のセレクト方法は、オーケストラロー、ソロも同様です。

ボリュームはここで調節。

★ボリュームを調節するレバーは、オーケストラロー、ソロも、それぞれの音色セクターの下にあります。

③ 鍵盤を押さえてみましょう。

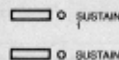


★同時に8音まで押さえることができます。(デュエット、トリオ、オーケストラローを使用していない時)

★他の音色セクターをONにすると、前に選んだ音色は自動的にキャンセルされます。(オーケストラロー、ソロも同様)

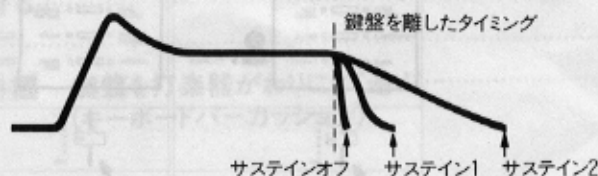
④ 効果を加えてみましょう。

サステイン

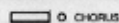


このボタンを押すと、鍵盤から指を離したあとも余韻が残って、自然に消えていくようになります。サステイン1と2は、余韻のかかりかたが異なります。曲によって使い分けてください。(オーケストラロー、ソロも同様)

★サステインはもう一度ボタンを押すとキャンセルされます。



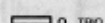
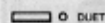
コーラス



このボタンを押すと、音がゆっくりと回り、回転しているような感じが得られます。(オーケストラロー、ソロも同様)

★コーラスはもう一度ボタンを押すとキャンセルされます。

デュエット/トリオ



オートベースコード(8~10ページ)を使用している時、メロディーに自動的にハーモニーをつけるボタンです。デュエットなら1音、トリオなら2音、コード音のなかからハーモニーが加わります。

★デュエット/トリオは、オーケストラアップパー、およびオーケストラローをOFFにした時のソロ音色に対して有効です。

★デュエット/トリオはもう一度ボタンを押すとキャンセルされます。

★オートベースコードで演奏していない時、デュエット/トリオのボタンを押してもハーモニーはつきません。

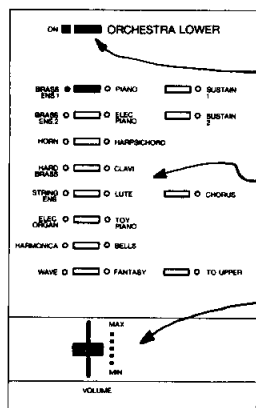
★ハーモニーとして加わる音の音色はオーケストラアップパー、の音色セクターで選んでいるものです。



3種類の音色パートを活用する

A 音色を高音部と低音部に分ける。

- ⑤ オーケストラローのボタンをON。
音色セクターから好きな音色を選びます。

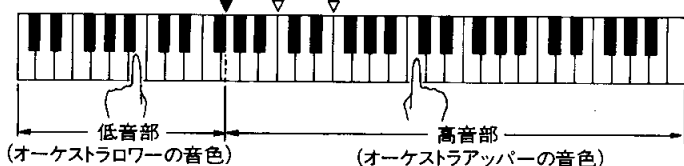


このボタンをON。

好きな音色を選びます。

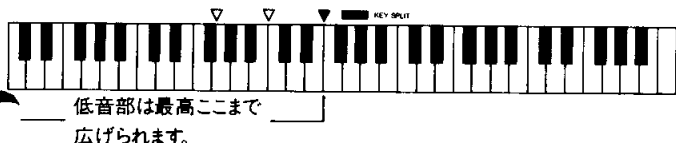
ボリュームはここで調節。

- ⑥ 鍵盤を押さえてみましょう。



★ランプのついた▽印を境目に、高音部がオーケストラアッパーの音色、低音部がオーケストラローの音色になります。

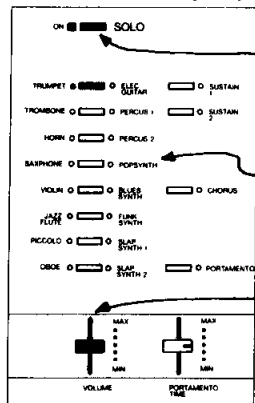
- ⑦ キースプリットで、高音部と低音部の鍵盤の範囲をセット。



- ★キースプリットは、1回押すごとに▽ランプの位置が変わります。
- ★同時に押さえられる鍵盤は高音部、低音部それぞれ4音までです。
- ★オートベースコードを使って自動伴奏をする時にオーケストラローがONになっていると、伴奏といっしょにオーケストラロー音色も発音されます。

B ソロ音色を加える。

- ⑧ さらにソロのボタンをON。
音色セクターから好きな音色を選びます。

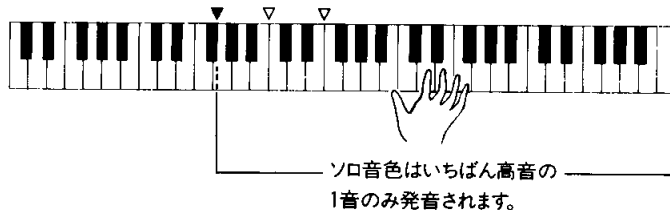


このボタンをON。

好きな音色を選びます。

ボリュームはここで調節。

- ⑨ 高音部の鍵盤をいくつか同時に押さえてみましょう。



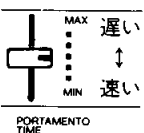
★この状態では高音部で同時に押さえられる鍵盤は5音までです。

- ⑩ ポルタメントの効果をプラスしてみましょう。
ポルタメントのボタンをON。

このボタンを押すと、前に押した鍵盤の音程から次に押した鍵盤の音程へ、音がなめらかにうつって行きます。

PORTAMENTO

音のうつる速さをこのレバーで調節します。



- ★ポルタメントの効果はソロ音色だけに使えます。
- ★ポルタメントのON/OFFは、フットスイッチを使っても行うことができます。(フットスイッチの説明は26ページにあります。)

C 音に厚みをもたせる。

- ⑪ さらにオーケストラローのツアッパーをON。

TO UPPER

- ⑫ 鍵盤を押さえてみましょう。

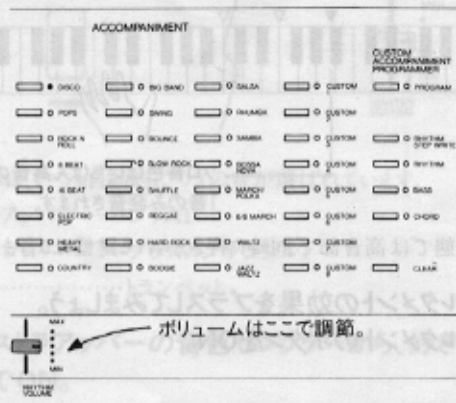


- ★ツアッパーのボタンを押すとすべての鍵盤が高音部になり、オーケストラロー音色も高音部にうつされます。
- ★この状態では同時に押さえられる鍵盤は5音までです。

初級編 PART2 リズムを鳴らす

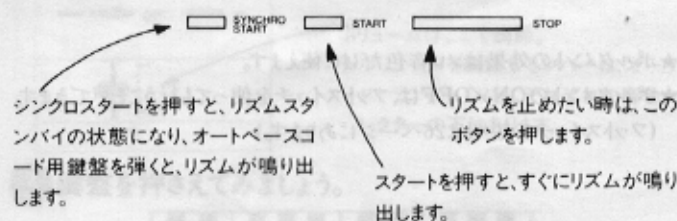
楽器を演奏するとき、メロディー・リズム・ハーモニーが3本の柱になります。メロディーはPART1で選んだ音色で弾き、リズムはこのPART2で選んだリズムを楽器がきざんでくれます。ハーモニー(伴奏)は自分で弾く場合と、オートベースコード(自動伴奏)の機能を使う場合がありますが、最初は難しい伴奏部分を楽器にまかせて弾くのが楽しむコツ。というわけで、オートベースコードを使いたい人は、このあとPART3と合わせて読んでください。

① リズムセクターから好きなリズムを選んでON。



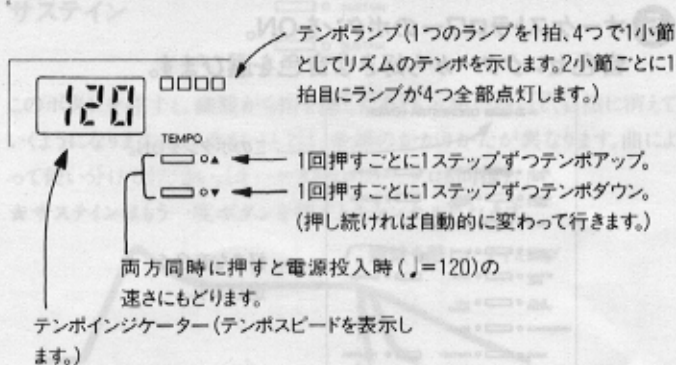
- ★電源を入れた時はディスコのリズムが選ばれています。
- ★他のリズムセクターをONにすると、前に選んだリズムは自動的にキャンセルされます。
- ★リズムボリュームが最小(MIN)になっていると、リズムの音が出ません。

② スタート、シンクロスタートどちらかをON。



- ★シンクロスタートを押すと、テンポランプの1拍目が点滅して、リズムスタンバイ状態になったことを示します。
- ★リズムのスタート/ストップはフットスイッチを使っても行うことができます。(フットスイッチの説明は26ページにあります。)

③ テンポコントロールでテンポを調節。



ボタンを押す回数	テンポ(♩=)	ボタンを押す回数	テンポ(♩=)
0	120	19	82
1	118	20	80
2	116	21	78
3	114	22	76
4	112	23	74
5	110	24	72
6	108	25	70
7	106	26	68
8	104	27	66
9	102	28	64
10	100	29	60
11	98	30	56
12	96	31	52
13	94	32	48
14	92	33	44
15	90	34	40
16	88	35	36
17	86	36	32
18	84	208	

- ★テンポアップ(▲)は28回以上、テンポダウン(▼)は37回以上押しても、テンポは変わりません。



リズムに変化をつける

バリエーション

リズムのパターンが変化します。つまり、このバリエーションのボタンを使うことによって、1つのリズムに対して2種類、合計24×2=48種類のリズムパターンが選べるようになります。

★バリエーションをONにすると、オートベースコードの伴奏パターンも同時に変化します。

フィルイン

メロディーの切れ目など必要な時にフィルインを押すと、その小節の終わりまで変則的なリズムに変わります。

★シンクロナイズドを押してからフィルインを押すと、リズムのテンポランプの1拍目が点滅し、フィルインでリズムがスタートすることを示します。

★フィルインを押し続けると変則的なリズムが長く続きます。

★フィルインのパターンは選んだリズムによって変化します。

★フィルインを押したあと、その小節内にもう1度押すと、通常のリズムにもどります。

★まずフィルインを押してからリズムをスタートさせると、最初の1小節が変則的なリズムになります。

★フィルインのON/OFFは、フットスイッチを使っても行うことができます。(フットスイッチの説明は26ページにあります。)

イントロ/エンディング

よりカッコよくリズムをスタート、ストップさせる時にこのボタンをつかいます。イントロとして使う時は、カウントをとってからリズムがスタート。テンポを確認して演奏をはじめます。また、曲の終わりに使用すると、カッコよくエンディングをキメることができます。

★リズムストップ中にイントロ/エンディングをONすると、リズムが2小節のイントロパターンでスタートします。

★リズムが鳴っている間にイントロ/エンディングをONすると、次の小節(2小節)が終わったあと、リズムがストップします。また、小節の後半にONすると、次の小節の頭からエンディングのパターンとなります。

★イントロスタートの場合、カウントの間は鍵盤を押さえていてもオートベースコードの音は鳴りません。鍵盤を押さえて待っていると、タイミングよくスタートできます。

★エンディングとして使用する時、ボタンを2度押すと、だんだんテンポがゆっくりになるリタルダンドとなります。

★イントロ/エンディングのON/OFFは、フットスイッチを使っても行うことができます。(フットスイッチの説明は26ページにあります。)

番外編 ||||| 鍵盤を打楽器がわりにして遊ぶ キーボードパーカッション

ドラムやパーカッションの中に使われている27種類の打楽器音が使えます。自由にたたくて遊んだり、他の楽器とのアンサンブルで打楽器のパートを受け持ったり、楽しみ方はいろいろ。オートベースコード(自動伴奏)を使うと、ベースとコード(和音)に合わせて自分でリズムをたたくこともできます。

① キーボードパーカッションのボタンをON。

鍵盤右端の上にあります。

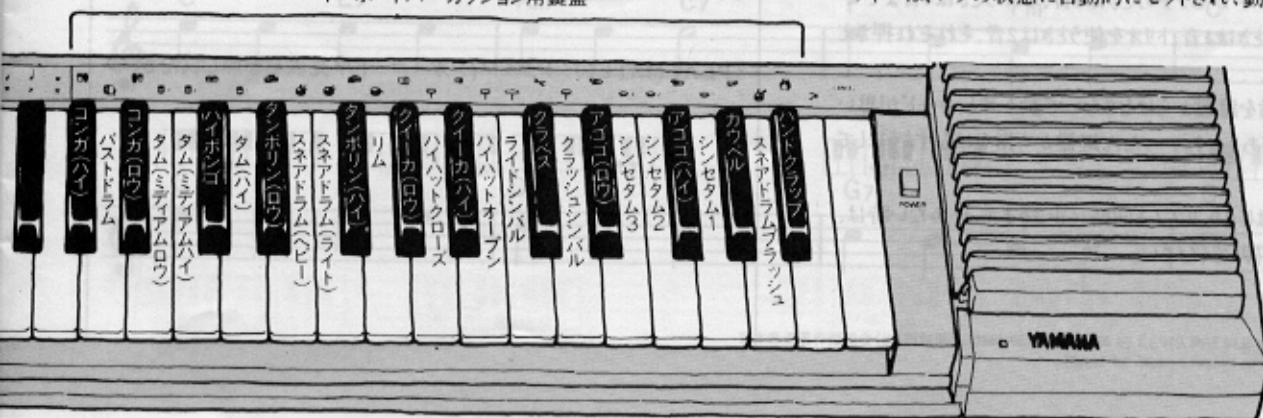
(この部分の鍵盤が打楽器音になります。)
キーボードパーカッション用鍵盤

② キーボードパーカッション用鍵盤をたたきましょう。



★音量はリズムボリュームで調節します。リズムボリュームが最小(MIN)になっていると、キーボードパーカッションの音は出ません。

★キーボードパーカッションがONになっていると、鍵盤を押しても通常の音は出ません。また、リズムもスタートしません。キーペロシティーセンシティブティーは、ロウの状態に自動的にセットされ、動かすことはできません。



初級編 PART3 オートベースコード

<I>指1本で自動伴奏…シングルフィンガー

左手の指1本でらくらく伴奏ができる、いちばん簡単なオートベースコードです。メジャー、マイナー、セブンス、マイナーセブンスの4種類のコードを自動伴奏できます。

① リズムをセット。

120 □□□□ ACCOMPANIMENT 好きなリズムを選んで

テンポはOK?

リズムのボリュームはここで調節。

シンクロスタートを押します。

バリエーションは ON? OFF?

START STOP INTRO (ENDING)

リズムの種類: DISCO, BIG BAND, SALSA, POP, SWING, RAGBRA, ROCK N ROLL, BOUNCE, SAMBA, S BEAT, SLOW ROCK, BOSSA, S BEAT, SHUFFLE, MARCH, ELECTRIC, REGGAE, S MARCH, JAZZ, HARD ROCK, WALTZ, COUNTRY, BOOGIE, JAZZ WALTZ.

② モードをシングルフィンガーにセット。

メモリーが自動的にONになります。メモリーがONになっていると、リズムが鳴っている時はコードを押さえた指を離した後も、自動伴奏が続きます。

シングルフィンガーをON。

ベース音のボリュームはここで調節。

コード(和音)のボリュームはここで調節。

押したボタンを取り消すときはOFFを押します。

★ベースやコードのボリュームが最小(MIN)になっていると、伴奏の音が出ません。

③ オートベースコード用鍵盤を指1本で押さえてみましょう。

和音とベース音がリズムにのってできます。

鍵盤の指番号: 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

★オートベースコードを使って弾くとき、メロディーの鍵盤で同時に押さえるのは、オーケストラローがOFFのときは8音、ONのときは4音までです。また、デュエットを使うときは1音、トリオを使うときは2音、それぞれ押さえられる鍵盤数が減ります。

★コードを変えると、指を鍵盤からはなさないで動かすと、コードが思いどおりに変わらないことがあります。いったん鍵盤から指をはなすようにしてください。

★伴奏は、リズムと同時に始まり、リズムと同時に止まります。止めたい時は、リズムのストップボタンを押してください。

シングルフィンガーコードのだし方

シングルフィンガーコードについて

次の図は、オートベースコード用鍵盤をおす位置と、てくる和音の関係を示したものです。

鍵盤で押す位置

コードネーム

でてくる和音 (メジャーコード)

鍵盤: ド レ ミ ファ ソ ラ シ ド レ ミ ファ

コードネーム: C D E F G A B C D E F

和音: ドレミファ ソラシド レミファ ソラシド

♯、♭のついているコードのだし方

鍵盤: G G♯ G

♯がついていたら、上の図で説明した位置の右上の黒鍵、♭がついていたら左上の黒鍵をおせば、♯、♭のついたコードがでます。

セブンスコード、マイナーコードのだし方

C (メジャーコード)

C7 (セブンスコード)

Cm (マイナーコード)

Cm7 (マイナーセブンスコード)

メジャーコードで押した鍵盤より左側の白鍵を同時に押す (どれでもよい)

メジャーコードで押した鍵盤より左側の黒鍵を同時に押す (どれでもよい)

メジャーコードで押した鍵盤より左側の白鍵と黒鍵を同時に(3音)押す (どれでもよい)

アルファベット1文字のコード(C、Dなど)をメジャーコードといいます。伴奏はメジャーコードだけとは限りません。例えば[G₇]のようなセブンスコード、[A_m]のようなマイナーコードもよく使われます。これらも、下図のように、2つの鍵盤を同時に押すことができます。

<PLAY MATEのシングルフィンガーコード早見表を参照してください。>

Let's TINKER 「ラブ・ミー・テンダー」を弾いてみましょう。

① オートベースコードをセット。

メモリーをON。
テンポは80~90くらい
シングルフィンガーをON。
リズムはポップスを選びます。

リズムはポップスを選びます。

リズムボリュームはまん中くらいに
コードボリュームはやや小さめに
ベースボリュームはまん中くらいに

② メロディーの音色をセット。

オーケストラアッパーをON。
音色はジャズオルガンを選びます。
楽譜の3段目 [DUET ON] のところに来たら、このボタンをON。
ボリュームをまん中くらいに

③ シンクロスタートを押します。

さあ、演奏スタンバイはOKです。左手でオートベースコード用鍵盤のC(ド)を押さえて、自動伴奏をスタートしましょう。右手のメロディーが入るのは、3小節目からです。

ラブ・ミー・テンダー

Love me Tender

作詞・作曲/E.Presley & V.Matson

POPS

C C D7 G7 C

JAZZ ORGAN

C D7 G7 C

DUET ON

C E7 Am C7 F Fm C

C A7 D7 G7 C

<II>和音を押さえて自動伴奏…フィンガード

左手で和音を押さえる、ちょっと高度なオートベースコードです。コード演奏になれている人や、シングルフィンガーでだせる4つのコードだけでは演奏できない曲を弾きたい時に使います。

① リズムをセット。

テンポはOK?

120

ACCOMPANIMENT

好きなリズムを選んで。

リズムのボリュームはここで調節。

バリエーションはON? OFF?

リズムの種類: DISCO, BIG BAND, SALSA, POP, SWING, TAMBORA, ROCK 'N' ROLL, BOSSA NOVA, SLOW ROCK, SHUFFLE, MARCH, ELECTRIC, REGGAE, S.B. MARCH, HEAVY METAL, HARD ROCK, WALTZ, COUNTRY, BOOGIE, JAZZ.

リズムのボリューム: MAX, MIN.

スタート, ストップ, リズム再生.

② モードをフィンガードにセット。

AUTO BASS CHORD

MEMORY → メモリーが自動的にONになります。

FINGERED → フィンガードをON。

ベース音のボリュームはここで調節。

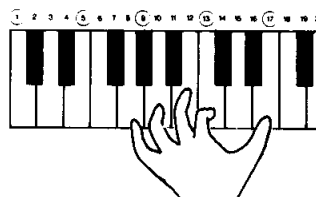
コード(和音)のボリュームはここで調節。

ベース音のボリューム: MAX, MIN.

コードのボリューム: MAX, MIN.

★ベースとコードのボリュームが最小(MIN)になっていると、伴奏の音が出ません。

③ オートベースコード用鍵盤で和音を押さえてみましょう。



★オートベースコードを使って弾くとき、メロディーの鍵盤で同時に押さえられるのは、オーケストラローがOFFのときは8音、ONのときは4音までです。また、デュエットを使うときは1音、トリオを使うときは2音、それぞれ押えられる鍵盤数が減ります。

★コードを変えるところで、指を鍵盤からはなさないで動かすと、コードが思いどおりに変わらないことがあります。いったん鍵盤から指をはなすようにしてください。

★オートベースコードの音色は、オーケストラで選んだ音色と関係ありません。

★伴奏は、リズムと同時に始まり、リズムと同時に止まります。止めたい時は、リズムのストップボタンを押してください。

★転回形を検出するコードは次の7種類です。

例: C, Cm, C₇, Cm₇, Cmaj₇, Cm₇⁻⁵, C₇sus₄。これ以外のコードの場合は、押鍵している和音の最低音をベースとして演奏します。

転回テクニックでラクラク演奏

コード早見表には、コードのアタマについているアルファベット大文字が最低音になっているのっています。このようにアルファベット大文字、つまり専門用語で「ルート」とか「根音」と呼ばれる音をいちばん低い音にしたカタチをコードの「基本形」といいます。

<例1>

C 基本形 転回その1 転回その2

この転回のワザを身につけると、響きを楽しむと同時に、フィンガードをつかう場合の演奏をラクにすることができます。<例2>を見てください。①はCコードもAmコードも基本の形。「ドミソ」→「ラドミ」と変わります。次に

<例2>

① C Am

全部の指をおさえなおす

②の方は、Amコードに転回のワザを加えたもの。ソを押さえている指1本をとりながら動かすだけで、簡単にコードを変えることができます。

②

1本だけ

<III> ベースラインを自分で弾く...マニュアルベース

自分でベースラインを演奏したいときに使います。ベース音に個性をつけたいとき、弾き語りをするときなどに便利です。

Let's Try
MANUAL BASS

「いとしのエリー」の弾き語りに挑戦!

① オートベースコードをセット。

テンポは70~80くらい

リズムはポップスを選びます。

MANUAL BASSをON。

ベースボリュームはまん中くらいに

リズムボリュームはまん中くらいに

ACCOMPANIMENT

<input type="checkbox"/> DISCO	<input type="checkbox"/> R&B BAND	<input type="checkbox"/> SALSA
<input type="checkbox"/> POP	<input type="checkbox"/> SWING	<input type="checkbox"/> RUMBA
<input type="checkbox"/> ROCK 'N' ROLL	<input type="checkbox"/> BOUNCE	<input type="checkbox"/> SAMBA
<input type="checkbox"/> R&B BEAT	<input type="checkbox"/> SLOW ROCK	<input type="checkbox"/> BOSSA NOVA
<input type="checkbox"/> R&B BEAT	<input type="checkbox"/> SHUFFLE	<input type="checkbox"/> MARCH
<input type="checkbox"/> ELECTRIC	<input type="checkbox"/> REGGAE	<input type="checkbox"/> 6/8 MARCH
<input type="checkbox"/> HEAVY METAL	<input type="checkbox"/> HARD ROCK	<input type="checkbox"/> WALTZ
<input type="checkbox"/> COUNTRY	<input type="checkbox"/> BOOGIE	<input type="checkbox"/> JAZZ WALTZ

② メロディーの音色をセット。

ORCHESTRA UPPERをON。

音色はエレクトリックピアノを選びます。

ボリュームをまん中くらいに

ON ☒ ORCHESTRA UPPER

BRASS 1 ☐ PIANO ☐ SUSTAIN

BRASS 2 ☐ PIANO ☐ SUSTAIN

BRASS 3 ☐ PIANO ☐ SUSTAIN

CLARINET ☐ VIBES

STINGERS ☐ JAZZ ORCHESTRA ☐ CHORUS

JAZZ ORCHESTRA ☐ HARMONIC GUITAR

PIPE ORGANS ☐ KOTO ☐ DUET

COSMIC ☐ MUSIC BOX ☐ TING

VOLUME

③ シンクロスタートを押します。

SYNCHRO START STOP INTRO REMING

さあ、演奏スタンバイはOKです。左手でベース、右手でコードを演奏しながらうたいましょう。ベースの鍵盤を押さえると同時に、リズムもスタートします。

いとしのエリー

Music & Words by K.Kuwata

C D7 F Em Dm7 G7

な か

C Em C7 F

した こと も ある つめ た く し て も な お よ り そ う き も ち が あ れ ば い い の さ お れ

Dm7 G7 C D7 F G7 C

に し て み り や こ れ が さ い ご の la-dy エ リー my love so sweet

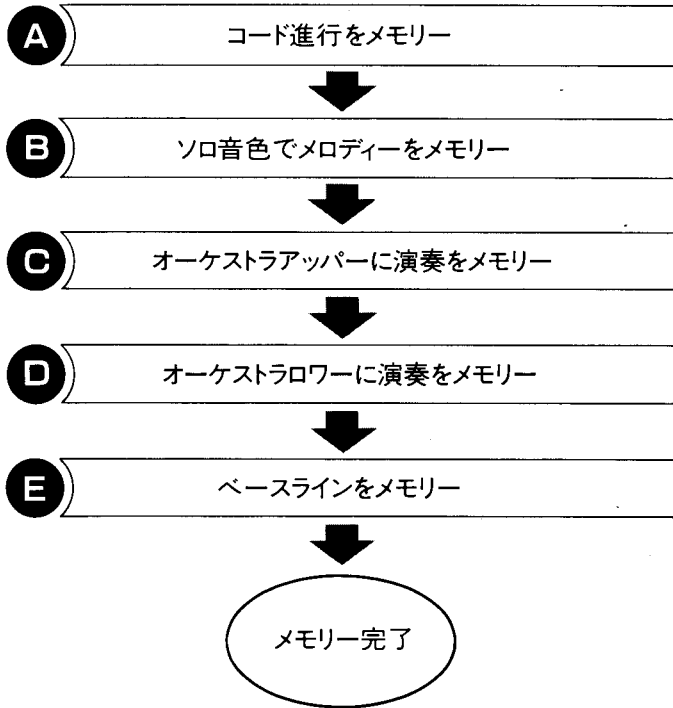
上級編 PART1 演奏をメモリーする

ミュージックプログラマー

ソロ、オーケストラアップパー、オーケストラロー、アカンパニメント、ベースを、それぞれ独立してメモリーさせ、それらを同時に再生することができます。ミュージックプログラマーにメモリーさせた演奏は、パワースイッチを切っても最低5日間有効です。

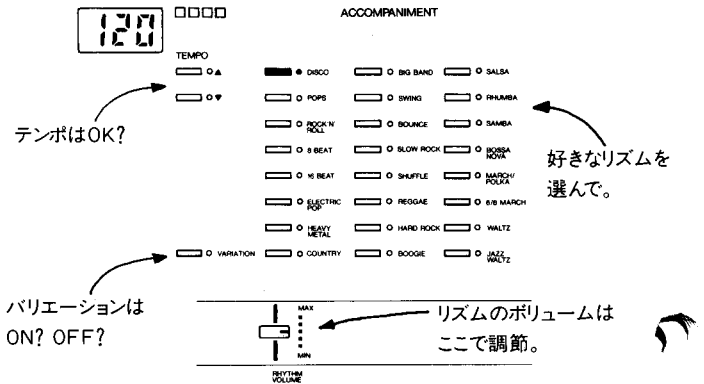
ミュージックプログラマーのメモリーのしかた

6つのパートのどこからスタートしても、2つ以上を同時にメモリーしても、またいづれかひとつのパートだけをメモリーしてもかまいません。ここでは、一般的な手順を説明しましょう。

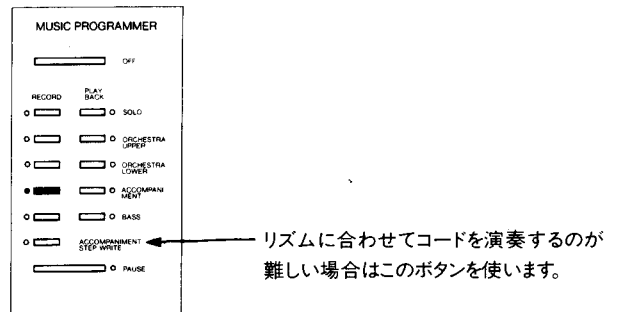


A コード進行をメモリーする

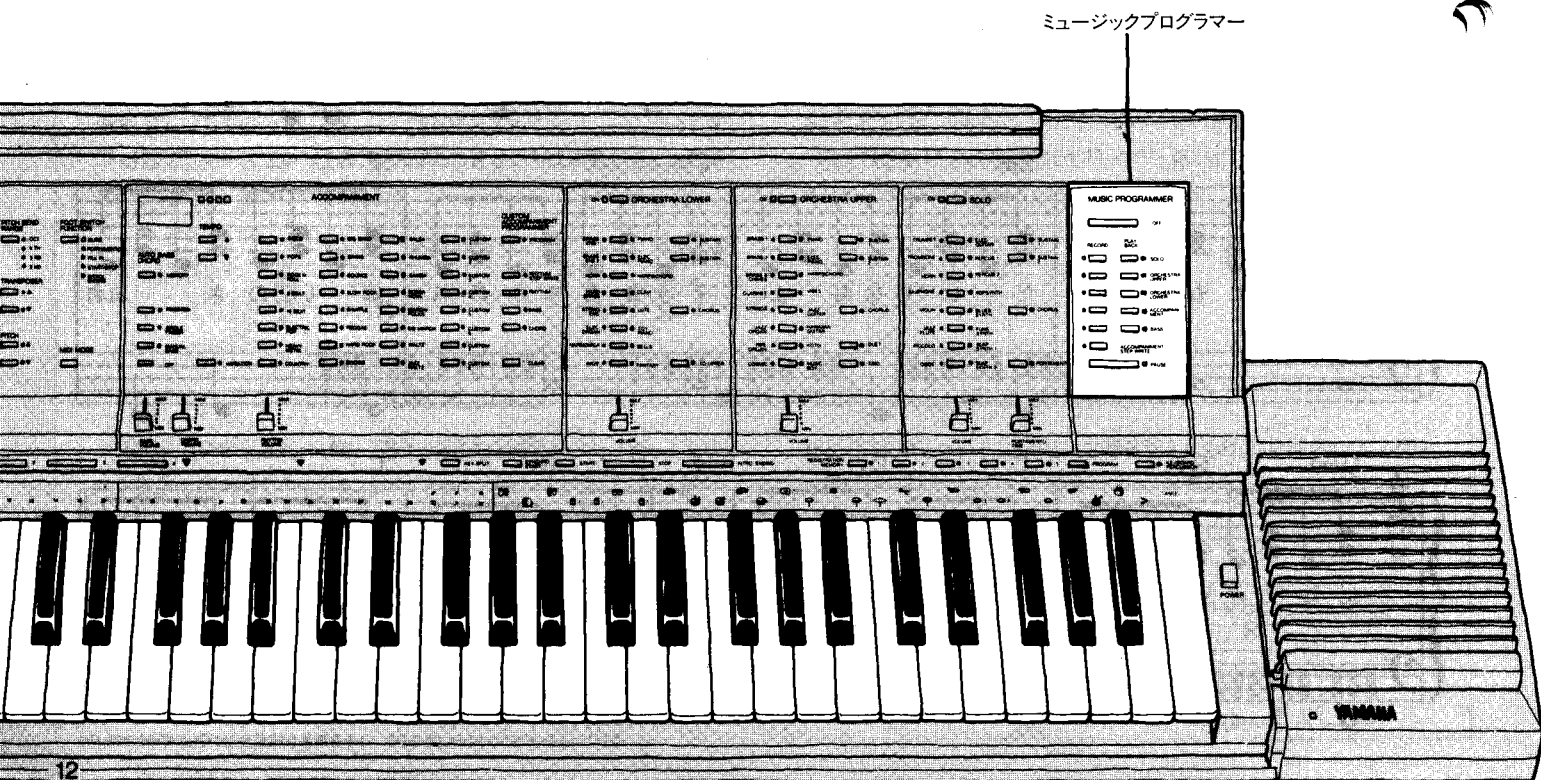
① リズムをセット。



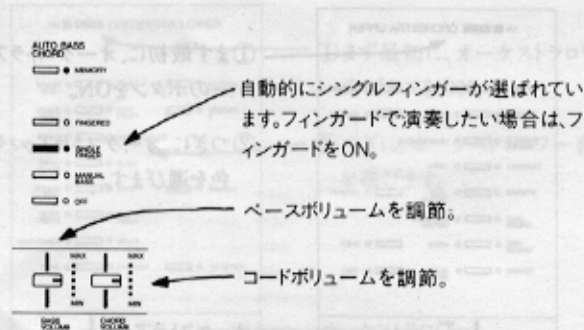
② アカンパニメントのレコードをON。



★メトロノーム音が鳴り出します。



3 オートベースコードをセット。



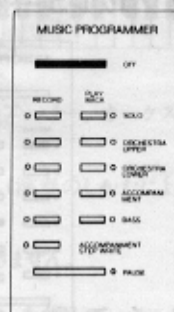
4 リズムに合わせてコードを演奏。



オートベースコード用鍵盤
(この部分でコードを押さえます。)

- ★オートベースコード用鍵盤を押さえると同時に、リズムが鳴り出します。(リズムスタート、イントロ/エンディングをONにしても鳴り出します。)
- ★1小節に1コード入れた場合で約200小節をメモリーすることができます。(演奏のしかたによって少なくなることがあります。)
- ★フィルインやイントロ/エンディングもメモリーできます。
- ★リズムのテンポインジケーターに、メモリー残量が表示されます。※23からはじまり、ひとつずつ数字が減っていくごとに、メモリーできる量が少なくなっていくことを示します。0の表示が出たら、メモリーストップとなります。

5 ミュージックプログラマー・オフのボタンを押して、コードのメモリー完了。



- ★ミュージックプログラマー・オフのかわりに、イントロ/エンディング、リズムストップのボタンを押してもメモリーを終了させることができます。

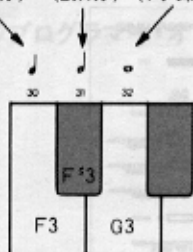
アカンパニメントステップライト

コード進行を記憶させる際に、コード変更のタイミングが難しい場合などは、アカンパニメントのレコードボタンのかわりにアカンパニメントステップライトのボタンを押してメモリーしましょう。

コード進行をメモリーする方法

アタマに30・31・32と書いてある鍵盤をそれぞれ4分音符・2分音符・全音符に見立てて、コードを記憶させます。メモリーしたいコードを押さえながら、そのコードの長さを示す鍵盤を押します。

4分音符 (1拍分) 2分音符 (2拍分) 全音符 (1小節分)

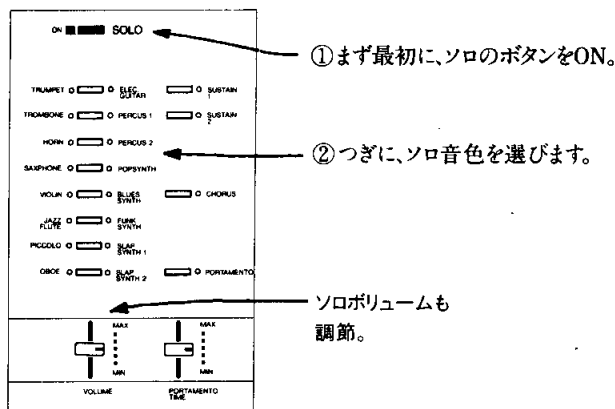


たとえば、下のようなコード進行をつくるには……



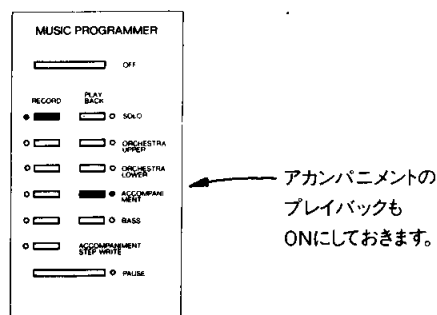
B ソロをメモリーする

① ソロ音色をセレクト。



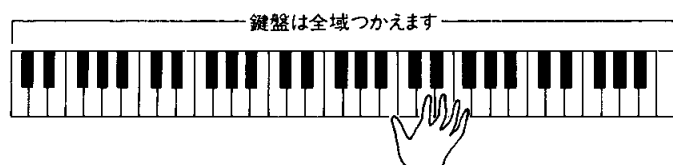
- ★サステインやコーラス、モジュレーション、ポルタメントもメモリーできます。
- ★オーケストラアップパー、オーケストラローのボタンはOFFにしておきます。

② ソロのレコードをON。



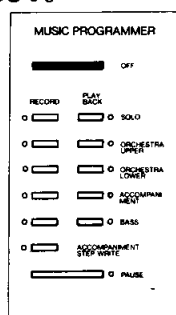
- ★メトロノーム音が鳴り出します。

③ コードに合わせてメロディーを演奏。



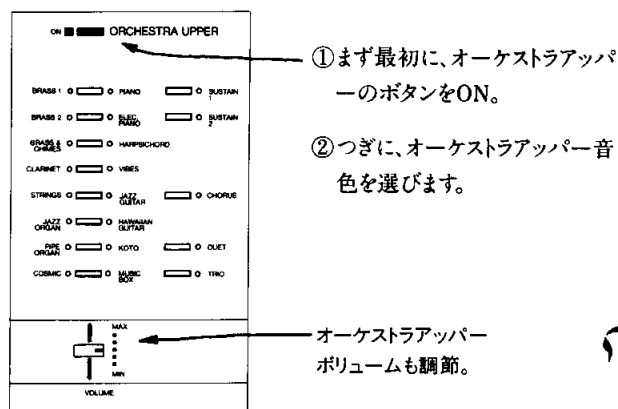
- ★ソロ音色は同時に2音以上発音することはできません。
- ★メロディーを弾きはじめると同時にコードもスタートします。
- ★8分音符で約800音のメロディーをメモリーします。(演奏のしかたによって少なくなることがあります。)

④ ミュージックプログラマー・オフのボタンを押して、メロディーのメモリー完了。



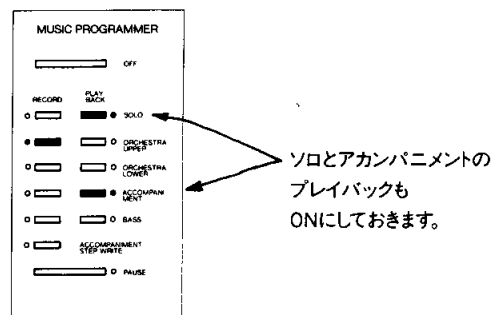
C オーケストラアップパーをメモリーする

① オーケストラアップパー音色をセレクト。



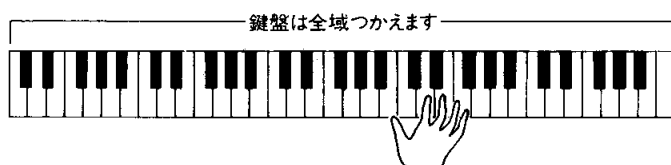
- ★サステインやコーラス、デュエット、トリオもメモリーできます。
- ★オーケストラロー、ソロのボタンはOFFにしておきます。

② オーケストラアップパーのレコードをON。



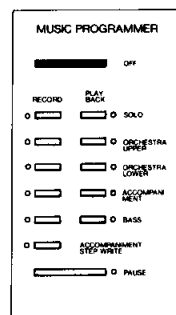
- ★メトロノーム音が鳴り出します。

③ コードとメロディーに合わせて演奏。



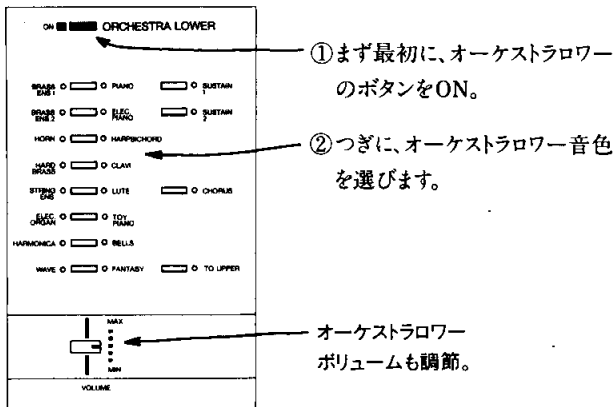
- ★鍵盤を押すと同時にコードとソロもスタートします。
- ★8分音符で約800音の演奏(オーケストラアップパーだけで)をメモリーします。(演奏のしかたによって少なくなることがあります。)
- ★同時に4音まで押さえられます。(デュエット/トリオを使用していない時)

④ ミュージックプログラマー・オフのボタンを押してメモリー完了。



D オーケストラローをメモリーする

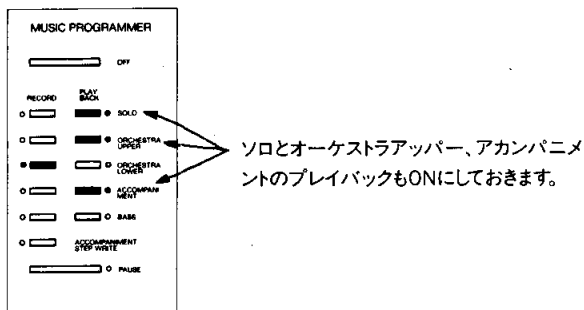
① オーケストラロー音色をセレクト。



★サステインやコーラスもメモリーできます。

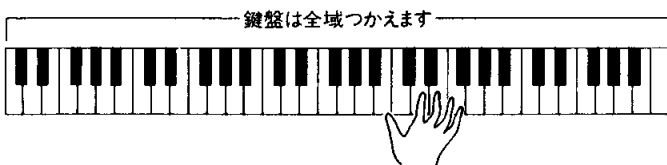
★オーケストラアッパー、ソロのボタンはOFFFにしておきます。

② オーケストラローのレコードをON。



★メトロノーム音が鳴り出します。

③ コードとソロ、オーケストラアッパーに合わせて演奏。



★鍵盤を押すと同時にコードとソロ、オーケストラアッパーもスタートします。

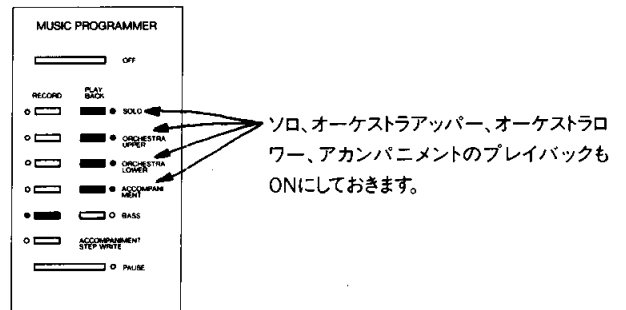
★8分音符で約800音の演奏(オーケストラローだけで)をメモリーします。
(演奏のしかたによって少なくなることがあります。)

★同時に4音まで押さえることができます。

④ ミュージックプログラマー・オフのボタンを押してメモリー完了。

E ベースラインをメモリーする

① ベースのレコードをON。



★メトロノーム音が鳴り出します。

② コードとソロ、オーケストラアッパー、オーケストラローに合わせて、ベースラインを演奏。

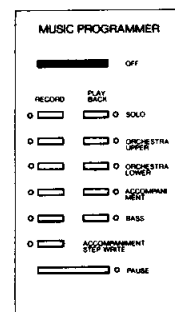


★鍵盤を押すと同時に、コードとソロ、オーケストラアッパー、オーケストラローもスタートします。

★8分音符で約400音のベース音をメモリーします。(演奏のしかたによって少なくなることがあります。)

★ベースラインは同時に2音以上発音することはできません。

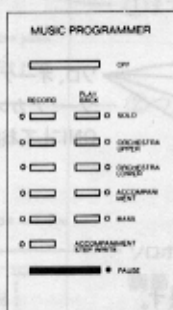
③ ミュージックプログラマー・オフのボタンを押して、ベースラインのメモリー完了。



変更

演奏を途中でましがえた時は……

演奏の再生を聴いて、ましがえた所の前でポーズをON。

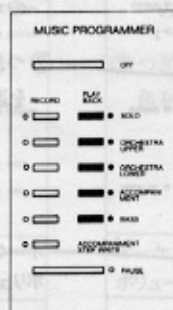


変更したいパートのレコードをONにして、ましがえた所からあとを演奏しなおし、終わったらミュージックプログラマー・オフのボタンを押します。

再生

メモリーした演奏を聞いてみましょう。

ソロ、オーケストラアップパー、オーケストラロー、アカンパニメント、ベースのプレイバックをON。



★再生をスタートさせる時は、リズムのスタート、鍵盤のいずれかを押します。

★再生させたいパートだけをプレイバックすることもできます。

ミュージックプログラマーがメモリーするもの

- アカンパニメント
 - リズムセクター
 - バリエーション
 - フィルイン
 - イントロ／エンディング
 - オートベースコードのセット
(シングルフィンガー、フィンガード、
マニュアルベース、OFF)
 - メモリー
 - リズムボリューム
 - コードボリューム
 - ベースボリューム
- ソロ
 - 音色セクター
 - ソロボリューム
 - サステイン(1,2)
 - コーラス
 - ホルタメント
 - ホルタメントタイム
 - モジュレーション
- オーケストラアップパー
 - 音色セクター
 - アップパーボリューム
 - サステイン(1,2)
 - コーラス
 - デュエット／トリオ

- オーケストラロー
 - 音色セクター
 - ローボリューム
 - サステイン(1,2)
 - コーラス
- その他
 - ピッチベンド
 - ピッチベンドレンジ
 - キーベロシティセンシティブィティ
 - の位置
 - キースプリットの位置

メモリーしないもの

- マスターボリューム
- テンポコントロール
- サステインペダルを使用した時の
サステインのON/OFF
- フットスイッチファンクションの
選択位置
- トランスポザー
- ピッチ